

令和8年7月30日
農推第1353-4号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

目次	ページ
特に発生に注意(8月)【野菜類・花き類:シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、果樹類:果樹カメムシ類】	1~2
病害虫の発生予報(8月)	3
水稲	4~5
野菜【なす、野菜類・花き類】	5~7
果樹【ぶどう、もも、みかん、果樹類】	7~11
花き【きく】	11~12
その他注意すべき病害虫【スクミリンゴガイ、ミカンナガタムシ、アザミウマ類(いちじく)、クビアカツヤカミキリ】	12~14

特に発生に注意(8月)①

野菜類・花き類:シロイチモジヨトウ



老齢幼虫



卵塊とふ化幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ ねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、卵塊の除去及び集団でいる発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。
- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC(ねぎなど)、コテツフロアブル(ねぎ、キャベツ、きく)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

病害虫発生予察注意報第3号「シロイチモジヨトウ」(令和8年6月30日発出)もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2606_r8cyuihou03_siroichimojiyoto.pdf

6月~8月は農薬危害防止運動月間です。農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

次回の情報は8月下旬にお知らせします。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

特に発生に注意(8月)②

野菜類・花き類:オオタバコガ



幼虫



卵

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。被害痕のまわりに虫のフンが確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。また、摘除した茎葉や果実に、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外へ持ち出し、処分する。
- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、アニキ乳剤(なすなど)、プレバソンフロアブル5(なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。

病害虫発生予察注意報第2号「オオタバコガ」(令和8年6月30日発出)もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2606_r8cyuihou02_otabakoga.pdf

果樹類:果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。
- ◆ 園地により飛来量が大きく異なる可能性があるため、園内を見まわり発生及び被害状況を確認する。

防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、スタークル／アルバリン顆粒水溶剤(もも、かんきつ、ぶどう、かきなど)、アディオン乳剤(もも、かんきつ、かきなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- ◆ スギ林やヒノキ林の隣接ほ場では、被害が多くなる傾向があることから特に飛来状況に留意する。

令和8年5月22日発出の病害虫発生予察注意報第1号「果樹カメムシ類」についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2605_r8cyuihou01_kajyukame.pdf

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

病害虫の発生予報(8月)

作物名	病害虫名	予想発生量(8月)
水稲	いもち病	やや少ない
	紋枯病	平年並
	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	やや少ない
	トビイロウンカ	平年並
	斑点米カメムシ類	やや多い
なす	うどんこ病	やや少ない
	アザミウマ類	やや多い
野菜類・花き類	シロイチモジヨトウ	多い
	ハスモンヨトウ	やや多い～多い
	オオタバコガ	多い
	コナガ	平年並
	アブラムシ類	平年並
	コナジラミ類	やや多い
ぶどう	べと病	平年並～やや多い
	褐斑病	平年並～やや多い
	晩腐病	やや少ない
	黒とう病	やや少ない～平年並
	チャノキイロアザミウマ	やや多い～多い
	フタテンヒメヨコバイ	やや多い～多い
	ハダニ類	平年並～やや多い
もも	せん孔細菌病	平年並
	シンクイムシ類	平年並
みかん	黒点病	やや少ない～平年並
	ミカンハダニ	平年並
	ミカンサビダニ	やや多い～多い
	カイガラムシ類	平年並～やや多い
果樹類	果樹カメムシ類	多い
きく	黒斑病・褐斑病	平年並
	アザミウマ類	平年並～やや多い

※予想発生量は、平年値(概ね過去10年の平均)に比べて、「多い・やや多い・並・やや少ない・少ない」の5段階で示しています。

※予報の根拠は下記ホームページ内の「病害虫発生予察情報」の該当月をご確認ください。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>

水稻

紋枯病



発病株

特徴

- ◆ 水際の葉鞘部分に楕円形の病斑ができる。
- ◆ 病原菌は糸状菌の一種で、高温多湿時に多発する。
- ◆ 品種では、キヌヒカリが本病にやや弱いので注意する。

防除のポイント

- ◆ 密植、チッソ肥料の過用、遅い追肥は避ける。
- ◆ 発生を認めたら、バリダシン液剤5、モンガリット粒剤などを散布する。

※注意！

モンガリット粒剤は、水稻における使用時期が「収穫30日前まで」なので注意する。

トビイロウンカ



成虫



幼虫

特徴

- ◆ 6月下旬～7月上旬の梅雨時期に中国大陸から日本に飛来する。
- ◆ 水田に飛来したトビイロウンカはイネの株元に住み着き、茎に産卵する。
- ◆ 卵は1週間ほどでふ化し、幼虫(第1世代)は親と同じくイネの株元で吸汁して成長する。第2世代、第3世代が繁殖し、出穂期以降に多発すると坪枯れ症状が生じる。

防除のポイント

- ◆ 密植、チッソ肥料の過用は避ける。
- ◆ トビイロウンカは稲の株元(水際)に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認する。
- ◆ 発生が見られたら、エクシードフロアブル(ウンカ類)、エミリアフロアブル(ウンカ類)などを散布する。



坪枯れ症状

「水稻 トビイロウンカの防除 改訂版 R6.7」もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/tobiirounka_osaka.pdf

水稻

斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ

アカヒゲホソミドリカスミカメ
(イネホソミドリカスミカメ)

特徴

- ◆ アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ(別名イネホソミドリカスミカメ)、ホソハリカメムシなどの発生が多い。
- ◆ イネが出穂すると畦畔や周辺のイネ科雑草から水田に飛来してくる。

防除のポイント

- ◆ 出穂10日前までにほ場周辺の畦畔や休耕田の除草を実施する。
- ◆ 出穂期～穂揃期にスタークル/アルバリン粒剤(カメムシ類)、トレボン乳剤(カメムシ類)等を根元まで届くように散布する。発生が多い時は乳熟初期(出穂後10日頃)にも散布する。

イネカメムシに要注意！！



イネカメムシ

基部斑点米や不稔米被害を起こす。水田飛び込み時期が他のカメムシより少し早めで、開花直後から穂の吸汁加害を始めるので出穂期の防除が必要となる。



ホソハリカメムシ

「水稻・斑点米カメムシの防除」(令和6年7月改訂版)もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/hantenmaikame_osaka.pdf

野菜

なす

アザミウマ類

ミナミキイロ
アザミウマ成虫※

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが果実や葉を加害する。なお、ミカンキイロアザミウマの果実被害は、水なすで目立つ。

防除のポイント

- ◆ 葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。
- ◆ 開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場および周辺の除草を徹底する。
- ◆ 発生を認めたら、モベントフロアブル、アフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- ◆ 露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

野菜類・花き類

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ なす科野菜、あぶらな科野菜、さといも等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。また、卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
- ◆ 発生を認めたら、アニキ乳剤(キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類など)、トレボン乳剤(さといも、さといも(葉柄)など)、プレオフフロアブル(さといも、なす、ミニトマトなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

「ヨトウムシ類の見分け方と防除」(平成13年3月作成)もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/yotoumushirui_osaka.pdf

コナガ



幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 発生初期に防除を行う。
- ◆ 発生を認めたら、グレーシア乳剤(結球あぶらな科葉菜類、非結球あぶらな科葉菜類など)、アフーム乳剤(キャベツ、こまつななど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。



成虫 ※

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、スタークル／アルバリン顆粒水溶剤(なす、ピーマンなど)、コルト顆粒水和剤(トマト、ミニトマト、ピーマン、未成熟とうもろこしなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

コナジラミ類



タバココナジラミ※



コナジラミ類成虫＊

特徴

- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ トマトやミニトマトでは、タバココナジラミの吸汁による果実の着色不良、TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)の伝搬等の被害を引き起こす。トマト黄化葉巻病に感染すると、生育の停止・着果不良を起こす。
- ◆ きゅうりでは、タバココナジラミがCCYV(ウリ類退緑黄化ウイルス)を伝搬し、キュウリ退緑黄化病が発生する。

防除のポイント

- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張し、成虫の侵入を阻止する。
- ◆ 施設周辺及び内部の除草を徹底する。
- ◆ ウイルス病の感染株は、施設外へ持ち出し処分する。
- ◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ ベストガード水溶剤(なす、トマト、ミニトマト、きゅうりなど)、アグリメック(なす、トマト、きゅうりなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。



トマト黄化葉巻病発症株

果樹

ぶどう

ベと病

※注意！

一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培(傘掛けを含む)には使用しない、等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。

特徴

- ◆ 雨が續くとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は速やかに取り除く。
- ◆ 発生を認めたら、レーバスフロアブル、ホライズンドライフフロアブル等を散布する。
- ◆ 農薬を散布する際に、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。



葉裏の症状

ぶどう

褐斑病



被害葉



被害葉(拡大)*

特徴

- ◆ 米国系品種に弱い品種が多く、デラウェア、マスカットベリーAなどに発生が多い。
- ◆ 多発すると、葉が早期落葉し、果実の着色が不良となる。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 発生を認めたら、オンリーワンフロアブル、ホライズンドライフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

チャノキイロアザミウマ



被害果*

特徴

- ◆ 巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きくなりやすい。

防除のポイント

- ◆ モスピラン顆粒水溶剤(アザミウマ類)、コルト顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

フタテンヒメヨコバイ



被害葉 *

特徴

- ◆ 葉の裏側から吸汁する。被害部分は色が白く抜ける。

防除のポイント

- ◆ 園周辺の草むらや落葉下で多く越冬するので、周囲の除草や清掃に努める。
- ◆ 発生に注意し、被害の初期に防除する。
- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤、エクシレルSE等を散布する。

ぶどう

ハダニ類



カンザワハダニ※

特徴

- ◆ 加温機の近くやダクトの先端部等、高温になりやすいところや乾燥条件で発生することが多い。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ダニオーテフロアブル、スターマイトフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

もも

せん孔細菌病



特徴

- ◆ 強風、降雨により発生が助長される。
- ◆ 果実では幼果期から未熟果期に感染しやすい。

防除のポイント

- ◆ 収穫後も、せん定等で発病部位を取り除くようにし、越冬伝染源の密度を下げる。
- ◆ 発生の多い園では秋季(9～10月)にICボルドー412を散布する。

シンクイムシ類



被害果

特徴

- ◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆ 被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 産卵期から幼虫加害期にモスピラン顆粒水溶剤、アディオン乳剤等を散布する。

新梢の芯折れ被害



みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆ 梅雨時期など雨が続くと発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤等を散布する。降雨が多い場合には、散布回数を増やす。
- ◆ 発生を認めたら、ストロビードライフフロアブル(かんきつ)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※注意！

ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤は、かんきつ(みかんを除く)における使用時期が「収穫90日前まで」なので注意する。また、皮膚のかぶれに注意する。

ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、スターマイトプラスフロアブル(かんきつ)、マイトコーネフロアブル(かんきつ)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

ミカンサビダニ



被害果*

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなりやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生の初期に、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤等を散布する。
- ◆ ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤に対して薬剤抵抗性が生じている地域では、コテツフロアブル(かんきつ)、ダニエモンフロアブル(かんきつ)等を散布する。

- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※注意！

ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤は、かんきつ(みかんを除く)における使用時期が「収穫90日前まで」なので注意する。また、皮膚のかぶれに注意する。

みかん

カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシの被害

特徴

- ◆ ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)等が加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生の多い園地では、防除を徹底する。
- ◆ 幼虫発生期にモスピラン顆粒水溶剤(かんきつ)、トランスフォームフロアブル(かんきつ)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

幼虫発生期

ナシマルカイガラムシ:5月下旬～6月中旬、8月上旬～中旬

ヤノネカイガラムシ:5月下旬～6月下旬、8月中旬～9月上旬

花き

きく

黒斑病、褐斑病



葉の病斑*

特徴

- ◆ 雨滴によって感染が拡大する。
- ◆ 病原菌の生育適温は24～28℃である。

防除のポイント

- ◆ 降雨の多い場合に発生が多いので、発生前からダコニール1000等を散布し、予防に努める。
- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生を認めたら、ベンレート水和剤、ストロビーフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※注意！

ダコニール1000は、花卉に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので、着色期以降の散布は避ける。また、かぶれに注意する。

ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は、薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆ 花卉はミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなどが加害し、葉は主にクロゲハナアザミウマなどが加害する。
- ◆ ミカンキイロアザミウマはウイルス(TSWV※1、CSNV※2)を媒介する。

※1 キクえそ病の病原ウイルス ※2 キク茎えそ病の病原ウイルス

防除のポイント

- ◆ ほ場内および周辺の除草を行う。
- ◆ きくの残さは放置せず、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ ビニールなどのマルチングにより、土中での蛹化を防ぐ。
- ◆ 施設では、開口部に0.8mm目合いの防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ 葉の被害に注意し、小発生時の防除を徹底する。
- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC(花き類・観葉植物(除りんどう))、アフアーム乳剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

その他 注意すべき病害虫

水稻

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)



成貝



卵塊

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度になる。
- ◆ 田植え直後から約20日後までの苗が食害され、欠株になる。成長した稲(5葉期以降)は食害されにくい。
- ◆ 卵は濃いピンク色で、稲の茎や葉の付け根、あぜ板、用水路の壁面などに卵塊で産卵する。
- ◆ 寿命は2～3年で、低温耐性は強くないが、府内では越冬が可能である。

防除のポイント

- ◆ 加害時期(田植え直後から約20日後まで)にスクミノン、スクミンバイト3、ジャンボたにしくん等の散布や、浅水管理により重点的に防除する。
注)スクミノン、ジャンボたにしくんを使用後は7日間たん水状態にし、かけ流しや落水はしない。
- ◆ 加害時期以降は、成貝を捕殺して、ほ場内の貝の密度を低くする。卵塊は、濃いピンク色の卵は水中で窒息死するため水中にかき落とし、ふ化直前の白っぽい卵は水中でもふ化するため、水中に落とさず除去する。
- ◆ 用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網(目合い5mm以下)を設置する。

「スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)生態と防除」(令和7年5月発行)もご参照ください。
<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/r7sukumiringogai-osaka.pdf>

果樹

みかん

ミカンナガタムシ



成虫



成虫による葉の被害

特徴

- ◆ 成虫の発生期間は5月から10月ごろにわたる。かんきつの葉の周縁部をノコギリ歯状に食害し、発生の目安となる
- ◆ 干ばつや老化等により樹勢が低下した樹に多く発生する。

防除のポイント

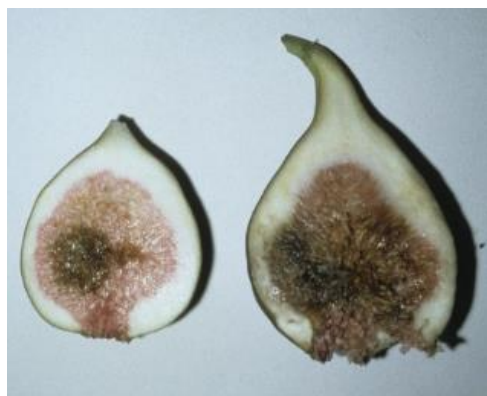
- ◆ 適切なせん定と肥培管理により樹勢の維持に努める。
- ◆ 発生を認めたら、エクシレルSE(かんきつ)、アケセルフフロアブル(かんきつ)等を散布する。

病害虫防除情報「ミカンナガタムシ」(令和7年12月25日発行)もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/126628/2512_r7bojo05_mikannagatamamushi_soshin.pdf

いちじく

アザミウマ類



被害果

特徴

- ◆ 主にネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマ等がいちじくを加害する。
- ◆ 果実の横径が2.5～3.0cmの頃から2週間程度の間に侵入する。
- ◆ 果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆ 成虫発生期にディアナWDG、グレーシア乳剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- ◆ ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

クビアカツヤカミキリ



フラス



幼虫

成虫

特徴

- ◆ 成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に羽化する。
- ◆ 幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス(幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で、中華麺～うどん状の太さに固まる)を排出する。

防除のポイント

- ◆ フラスの発生を見逃さないように、ほ場をよく見回る。
- ◆ フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してからロビンフッド(もも、すもも、うめなど)を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆ ネットを設置した場合は、ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで捕殺する。
- ◆ 成虫の発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤(もも、すももなど)、アクタラ顆粒水溶剤(もも、うめなど)等を散布する。

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策(R8.5改訂版)」もご参照ください。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/kubiaka2605.pdf>